

会 議 の 名 称	茅野市行財政改革推進市民委員会 第3回委員会		
開 催 日 時	平成29年10月31日(火) 18時30分～20時30分		
開 催 場 所	市役所議会棟大会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
委員長 吉澤企画係主査 吉澤企画係主査 委員長 委員	○議事		
	1 開 会		
	2 委員長挨拶		
	3 報告事項		
	(1)パブリックコメントの結果について		
	4 協議事項		
	(1)茅野市行政経営基本計画の体系と取組内容について資料1 資料2		
	(2)第5次総合計画へ掲載する政策の目指す姿について資料3		
	5 その他		
	次回委員会日程 第4回：11月27日(月) 午後6時30分 市役所8階大ホール		
	6 閉会		
	○議事録		
1 開 会			
2 委員長挨拶			
行政経営基本計画の策定は、まとめの時期に入っていく。委員の皆様には引き続きご協力をお願いしたい。			
3 報告事項			
(1)パブリックコメントの結果について			
10月2日から27日までの期間で実施。意見が無かったことを報告。 ・・・意見質問なし・・・			
4 協議事項			
(1)茅野市行政経営基本計画の体系と取組内容について資料1 資料2			
・・・政策運営について資料に基づき説明・・・			
はじめに、政策運営について提案や意見をいただきたい。			
今回のパブリックコメントの実施結果は意見がなかったとの事であるが、まち懇や区長会で生の声を確認するのはどうか。あらかじめ意見がほしい質問ポイントを絞り込み、意見を出しやすいように資料の提供及び質問事項の提供をしてはどうか。パブコメでの意見がなかったとしても、まち懇や区長会で意見がもらえれば、実態としての中身や深みが増すのでは			

<p>小平企画財政課長</p>	<p>ないか。</p> <p>自治基本条例の狙いがよく分からない。地方自治法よりも詳細に基本条例として落とすポイントは何か。何かを意識しているのか。</p> <p>パブリックコメントの件数が、非常に少ない現状であるため、体系図(案)には、まち懇、区・自治会からの要望等を広聴の立場から施策の情報受発信分野に入れていることから、こちらは政策に反映していく役割も持っている。位置づけについては整理していく。</p> <p>自治基本条例については地方自治法で決められているもの以外に、独自に地方自治体で住民自治に基づく基本的な原則を定めた条例、地方自治体の憲法とされている。全国約1,700の自治体のうち、現在約300~400の自治体が制定している。自治基本条例は一般的に地域の課題への対応、まちづくりを誰がどんな役割を担い、進めていくかを文書化したものである。多くの自治体は情報共有の方法や市民参加、協働等の自治の原則、自治を担う市民、首長、行政の役割分担の明確化を図り、より住民自治を広く進めていく条例である。行政だけではなく市民の意識の醸成も必要となる。条例が出来たからと言ってどのようにまちが変わるのかは、市民意識の変化も必要となる。市民の意見も取り入れ、条例の必要性について研究をしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>必要に応じて市町村合併の調査研究を行うとあるが「必要に応じて」とはどんな場合を想定しているのか。</p>
<p>小平企画財政課長</p>	<p>平成15年頃合併の議論が行われたが不調に終わった。今後、合併の考え方については市民の皆さんの意向を尊重すべきと考えている。市民の意識が盛り上がった段階で調査・研究を行いたい。現段階では行政として積極的に働きかけをしていく姿勢ではない。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の委員会でも発言したが、近隣市町村との連携は重要と考えている。地域の子どもの情操教育の一環として、例えば世界的な芸術品(絵画)の実物大フェイク(高精細複写プリント)を展示する美術館等の諏訪広域での連携を提案したい。</p>
<p>小平企画財政課長</p>	<p>提案は持ち帰り、参考にさせていただく。</p>
<p>委員</p>	<p>近隣市町村との連携で重要なのは広域的な行政課題として何を取り上げるかである。少子化対策、市の活性化、住民自治などの根本的な問題は茅野市単独で効果はなかなか出ないため諏訪圏全体で取り組むべきである。</p> <p>理科大の学生に、卒業後に地元企業へ就職し住み続けてもらいたいと考えていても学んだことを活かせる企業がなければ都会へ行ってしまう。どうやって働く場を増やすか、どこの市町村も問題意識はあるが行動に繋がっていないと感じている。ぜひ広域で連携し、力を入れていただきたい。</p> <p>自治基本条例については説明を聞いて納得した。区長・区会の役割は明確にされておらず各区の実状で大きな差があるが、最小限の役割を定めれば足並みが揃うと思う。区に設置すべき組織についても自主防災はほとんどの区に設置されているが、未設置の区もある。また自主防災以外の役割は区によってまちまちであり、概念としては固まっていない。入区につい</p>

	でも基本条例に謳われることで促進にもつながる可能性もある。研究をされる過程でより良く進めてほしい。
委員	複雑・多様化する行政需要、課題とは具体的に何か。
小平企画財政課長	茅野市でも少子高齢化が進み、社会情勢が変わる中、一例として子育て支援をとってみても、子育て分野・福祉分野など様々な側面からの支援が必要であり、どの組織でどのように市民に接すればより良い市民サービスに繋がっていくかということ。 市としても、市民が部署のたらいまわしにならずワンストップで対応できる組織を探り、見直しながら進めている。
吉澤企画係主査	(1)茅野市行政経営基本計画の体系と取組内容について資料2 ・・・財政運営について資料に基づき説明・・・
委員長	財政運営について提案や意見をいただきたい。
委員	市債管理で借入額より返済額を多くすると言いつているが、これは10年間の計画である。計画後半には公共施設の建て替え等、大変な金額のかかる計画がある。返済額を多くしても返済がうまく回るのか、市全体の最適な選択となりうるのか心配な部分である。
小平企画財政課長	今後、小・中学校の建て替えが10年以内に控えている。財政運営面では当然市債の残高負担を減らしていきたいという願いから、このような表現とした。今後どのような市債管理が望ましいかを考えたい。
委員	きれいにまとまってはいるが、具体的にはよく分からない部分がある。 茅野市の行政の現在から将来の問題点を中・長期的なロードマップとして描けば具体的な推進課題を予測できるのではないかと。 職員の人材育成については日頃からの学び合いと、それぞれが主体性を持つような組織風土が必要である。 課題提案型の人材育成を行っていただきたい。
小平企画財政課長	財政面では10年を期間とする財政計画を策定し具体的な課題への対応を整理する。総合計画の推進にあたっては、毎年、市政経営方針を示し、この1年間で何の取組を重点的に行っていくかを職員間で共有する。また、課の方針と目標を共有しながら業務に携わっている。 職場風土の改善についてはまだまだ至らぬ点があるが、ご意見のとおりと感じている。風通しの良い職場づくりが引き続き必要と考えている。
委員	医療技術の進歩により超未熟児であっても生存率は上がったが、重度の障害が残ってしまう場合もある。支援が行えばいいが、福祉業界では慢性的な人手不足である。さらに、介護福祉士の資格取得に多大な時間と費用がかかるため、今後就業者が増えるとは思えず不安である。行政と民間との連携が必要と感じている。
小平企画財政課長	民間と行政との連携については、大切な視点だと思っている。人材不足

	<p>は一市町村での解決は難しい。資格取得の研修時間については、市が国や県に資格取得しやすい環境づくりのための制度改正を要望することもできるため、具体的な要望を行政へお寄せいただきたい。</p>
委員長	<p>情報受発信について提案や意見をいただきたい。</p>
吉澤企画係主査	<p>(1)茅野市行政経営基本計画の体系と取組内容について資料2 ・・・・情報受発信について資料に基づき説明・・・</p>
委員	<p>前回、学生に情報発信の一端を任せてみてはどうかという意見があった。子ども達に観光客へインタビューをしてもらい茅野市は子どもが多く元気があるというような印象を与えられると良いのではないかと。</p>
委員	<p>体系図(案)から、職員の効率化や適正化に取り組んでいる事や、市民から市へ意見・要望できる体制が整っている事が伺えるが、市議員についてはどうなっているのか。</p>
小平企画財政課長	<p>議会は議会の中で定数を議論することが理想である。</p>
委員	<p>茅野市は多くの事項が審議会等で審議されているため、最終判断をする議員の人数はもう少し少なくても良いのではないかと感じているが、どのような場で意見を伝えれば良いか。</p>
小平企画財政課長	<p>年に数回議員との懇談会が開催されているので、そのような場で意見を出していただくのが良いのではないかと。</p>
委員	<p>そこで意見を出しても最終的な判断は議員であるため、自分たちの身を切るような判断をすることは難しいのではないかと。</p>
委員	<p>自分たちの身を切るような判断をした議会もある。</p>
委員長	<p>市議会議員の定数等については行政経営基本計画の中に位置付けるのは難しい。</p>
委員	<p>議員定数や市民の満足度などをテーマに、毎月開催されている区長会で意見交換をすることで市民の意見を聞くことができるのではないかと。</p>
委員	<p>茅野市のHPにアクセスカウンターがついているのなら、アクセス数を評価してはどうか。 マイナンバーカードの取得率はなかなか上がらないが、今後は健康保険制度、税務申告と、マイナンバーカードが必要となる。また行政窓口での本人確認の負荷が減らせる。10年のスパンで考えるのであれば情報公開・個人情報保護事業に、マイナンバーカード取得促進をいれていただきたい。</p>
小平企画財政課長	<p>普及に向けてはインフラの整備も必要となる。今後コンビニで住民票等を取ることができる『コンビニ交付』を整える中で、マイナンバーカード普及につなげていきたい。</p>

岩崎地域戦略課長	<p>ホームページアクセス数は事務事業評価の中で評価指標となっている。閲覧者には見えないが管理はしている。平成 31 年度には使いやすい・見やすい・探しやすいホームページへとリニューアルする。</p>
委員	<p>茅野市ホームページの『ページに関するアンケート』はどの位の人があるような評価をしているのか。</p> <p>『シティプロモーション戦略の策定と推進』と『広域行政の推進』と合わせて考えることはできないのか。</p>
岩崎地域戦略課長	<p>アンケート結果はまた改めてお示ししたい。</p> <p>諏訪広域には観光に特化した諏訪地方観光連盟があり、『謎の国 諏訪の国』としてキャンペーンを実施している。</p> <p>この計画での戦略的なシティプロモーションは茅野市に特化する。まずは、市民が市内各地区の魅力を共有し、発展的に外に発信していきたい。茅野市を売り出すため、ホームページだけではなく、動画や SNS を活用し情報発信を行っていく。</p>
委員	<p>茅野市の DMO の取組とシティプロモーションとの違いは何か。今後の連携についてはどうか。</p>
岩崎地域戦略課長	<p>DMO は観光を資源としたまちづくり、滞在型交流プログラムとして地域の資源を利用した旅行業がメインとなる。売って行く地域資源についてはシティプロモーションと重なる場合があるが、ダブルスタンダードにならないよう庁内で情報共有していく。</p>
委員	<p>情報公開・個人情報保護の、『条例・規則等に基づく手続きを適正に行う』は当然と思うが。敢えて記載する必要があるのか。</p>
土橋総務課長	<p>そのとおりではあるが、適正な運用をしていくという意味で計画の中に位置づけをした。</p>
委員	<p>個人情報保護法が改正され、ビッグデータとして利活用できる要素もあるのでチャレンジしてはどうか。個人情報の活用という意味ではもっと違った方向性もあると思う。</p> <p>茅野市の、豊富な観光資源を積極的に発信すべきである。</p> <p>財政運営の分野でクラウドファンディングとあるがそれは資金集めのやり方である。やり方が先にきてしまうとそのやり方を使うためのアイデアを出すことが難しいのではないか。</p>
小平企画財政課長	<p>個人情報関係はコンプライアンスを徹底していくといった考えである。情報漏えいが起こらないような管理していくとして記載した。</p> <p>ビッグデータの関係については統計データを汎用できるような環境をつくり、市民の皆さんにも利活用していただく。整合が取れていない部分は整理させていただく。</p>
委員	<p>様々な課題や生産性を上げる方法があっても、国の細かい法律により規</p>

	<p>制され、うまく進められない場合にどう乗り越えていくか。手法の一つとして特区制度がある。特に書き込む必要はないが、ある課題に対して特区制度を利用することによって一気に進捗する可能性があることを念頭に置いていただきたい。</p>
小平企画財政課長	<p>今後そのような視点でまちづくりをしていく必要があると感じている。国はこれまでの義務づけや枠組みを見直し、地方に裁量権を持たせるといった地方分権改革を進めている。特区制度も必要となった場合は制度を活用し、まちづくりを進めていく。</p>
委員	<p>人口減少が大きな課題となっているが、親が茅野市を批判するような会話をしていると、子どもは自分の地元には魅力がないと感じてしまう。茅野市の個性や魅力を話し合う場についても考えていく必要がある。ひとりひとりが当事者意識を持たなければいけない。</p> <p>まち懇の提案の仕方についても工夫をしていかないと質問が出しづらく、このままでは参加者も減って行ってしまうのではないかと。</p>
委員	<p>公共工事や物品の購入等、積極的に市内の企業を利用することで税収は上がる事を意識してほしい。</p>
堀内管理課長	<p>工事や物品購入について、市の入札は市内業者優先である。競争性や公平性を図る中で市内に対象業者がない場合には、諏訪圏、県内で指名を行っている。</p>
吉澤企画係主査	<p>(2)第5次総合計画へ掲載する政策の目指す姿について資料3 ・・・・資料に基づき説明・・・</p>
委員	<p>行政経営は都市基盤から保健・医療・福祉までを下支えている部分である。しかし『行政経営分野』と「分野」という言葉を付けると全体を下支えているような印象を受けない。「分野」ではなく“個々の分野を支える根っこ”というイメージが沸くような違う言葉はないか。</p>
小平企画財政課長	<p>行政経営は各分野の下支えや後ろ盾をする位置づけとなっている。計画の中では『行政経営』というひとつの政策として『分野』は取りたいと考えている。全体を総括する言葉については内部で検討する。</p>
	<p>5 その他 次回委員会日程 第4回：11月27日(月) 午後6時30分 市役所8階大ホール</p>
	<p>6 閉会</p>
副委員長	<p>本日も活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。</p>